

## 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 学会賞 臨床部門

### 小児の尿禁制獲得時期に関与する因子： 縦断的コホート研究 (エコチル調査より)

志村 寛史 (山梨大学大学院 総合研究部 泌尿器科学講座)



この度、第 32 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会において「小児の尿禁制獲得時期に関与する因子：縦断的コホート研究 (エコチル調査より)」というテーマで発表させていただき、学会賞をいただくことができました。今回の発表内容は疫学研究であり、調査にご協力いただいた多くの親御さん、データを管理してくださったスタッフの方々、当院のコホートセンターの方々など、関係の方々に御礼申し上げます。

夜尿症や昼間の尿失禁は、一般集団においても非常に多くのお子さん、親御さんが悩まれる疾患です。これまでに行われてきた研究でも、小児の尿失禁の自然史やリスクファクター等が示されてきましたが、大規模な縦断研究でリスクファクターについて検討したものはなく、そういった研究の手法の点で本研究は意義のあるものでした。非常に多くの因子について検討し、排便の自立度が尿禁制獲得に強く関与していたことが分かりました。他にも発達の数値なども一定の関与が考えられましたが、児の肥満や家庭環境からのストレスなどは関与が乏しいことが分かりました。

本研究のもとにはエコチル調査から得られた膨大なデータがあり、本研究で着目した小児の尿失禁についてだけでも別の着眼点で全く別の解析を行うことも可能で、他の因子の関わりも新たに検討したいと考えています。実は収集しているデータはアンケート内容だけでなく、採血などの試料もあり、今後はそれらとの関連を解析して新たな知見が得られればという展望があります。

この度は大変栄誉ある賞をいただき、またこのようなコメントの機会をくださり、携わっていただいた先生方に感謝いたします。これを励みにさらなる研究に研鑽して参りたいと思います。